

## ○第 2 つくし作業所支援

### ・よろず大作戦

現在は民間委託となっているが、当時は社協が運営。男ボラに入会した者は、まず「つくし」でボランティア体験を、というのが 10 数年前の決まりだったとか。夏まつりなど、縁の深い作業所だが、市役所からの提案もあり、作業所の全面支援をえて、作業所製品として竹トンボを選管に納入した。

### よろず大作戦顛末記

2007 年 3 月 1 日づけの「よろず大作戦」完了報告には、こう記されている。

・昨年 5 月 23 日の竹採取から始まった、竹とんぼづくり大作戦は、2 月 27 日作業場片づけで、一旦幕を閉じました。

つくし作業所への納品数は、

N 式 5315 本、S 式 2020 本 計 7335 本。  
計画時の要望量 1 万本には及びませんが、幹事役が内心見込んでいた 5000 本を大幅に超える量であり、皆様のご協力に感謝いたします。

・活動日数はのべ、146 日、参加者はのべ 673 名。

参加回数ランキングでは、

1 位 61 日 (平林) 2 位 57 日 (田中貞) 3 位 52 日 (嶋田)  
4 位 49 日 (瀬野) 5 位 47 日 (寺澤)

制作数量ランキングでは

1 位 1100 本 (嶋田) 2 位 900 本 (平林) 3 位 800 本 (瀬野)  
4 位 440 本 (寺澤) 番外 S 式 2020 本 (鈴木、田中三)

参加人数が多かった日は 10/25(11 名) 7/3(10 名)

・なお、7 月参院選挙に関しては、正式にお断りしました。

幹事は正直な気持ち、バテ気味です。しばらく休養させてください。  
みなさんも口にはださなくても相当無理をされていたようです。

ここでいう、N 式とは、いわゆるひねり竹とんぼ。羽根の角度を熱で暖めてひねるもので、少しコツを覚えれば、だれでもできる。工程ごとの分割生産体制をとった。S 式とは、小刀で竹を削りだして羽根角度をつけるもので、一人が一貫してつくりあげる伝統的な工法である。

(つづく)



データを見るだけで驚くべき数字。まさに男ボウだからできた大事業だったことがうかがわれる。

そもそもこの作戦のきっかけは、市役所福祉部長より、「選挙の景品に“竹とんぼ”は如何か。つくし作業所の製品として、市民にアピールしたい。指導や基本的なところは、だんぼらに委託する。希望量は1万本」という話が代表に2006年4月ごろきたこと。早速、企画書を作成、製品サンプルを提出して、5月にGOがか



かった。材料は、平口さんが懇意にしている小野路の東光寺から入手する。斜面にある竹林の下草刈りとのバスター。作業場は、つくし作業所の会議室。ボール盤、カンナ、やすり、電動ドライバードリル、のこぎりなど、道具もそろえ、約9カ月の作業により頭記の成果とはなった。最終包装は、つくし作業所が

おこない、市議選に間に合うよう選管に納入された。

いま思えば、みんな若かった。まさに盆も正月もないスケジュール。作業場だけではものたりず、自宅に持ち帰って、羽根に軸をつけ、仕上げる人も。家人から顰蹙をかったのは、私だけではないはず。

ところで、完成品は約7400本。1万本には足りないが、そのときの残材料は、その後の、「竹とんぼキット」に使っており、年400本程度販売されている。すでに2000本以上消化し、もうすぐ1万本になる。20周年の節目に、よろず大作戦は真の終了を迎える。（長瀬 敏雄）

